

# 道教組

2019年9月18日発行

DOKYOSO NEWS VOL.558

教職員とその家族を守る  
全教自動車保険

## 5つの特徴

- ①無事故割引を引き継ぎます
- ②団体扱い割引を10%に拡大
- ③家族の車もまとめるとさらに割引
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

有限会社 川上企画

(道教組指定代理店)

札幌市中央区大通西12丁目4-78  
TEL:0120-222-789 FAX:011-218-2472



## 原水禁世界大会に参加して

## 平和のとりくみを学び、自分にも

## できることがあると勇気をもらった

原水爆禁止2019年世界大会が今年も8月に開催され、道教組の組合員が2名参加しました。宗谷教組の中井駿さんに、参加報告を寄せていただきました。

### 原水禁世界大会に参加して

宗谷教職員組合 中井駿

「せっかく行かせてもらうんだから、学んだことを子どもたちにも伝えたい！」

でも、どのように伝えれば…。」子どもたちと平和について考えることができない学びになれば、と思いながら参加させていただきました。

現地では、被爆者の方の体験談や、全国、世界各国で活動している方々の話を聞かせてもらいました。不勉強なところもあり、どの話も本当に驚くばかりでした。被爆した際の様子は、ただただ恐ろしく、想像すら難しい悲惨な状況だったのだろうと感じるばかりでした。また、そのようなことを2度と起こさないために、全国ではもちろん、核爆弾保有国であるアメリカはじめ、さまざまな国でも核兵器をなくすためにたくさんの方々の活動をしていることを聞き、自分たちにもきつとできることがある、と勇気をもらいました。

たくさんの方々の事実を学ぶことを通して、子どもたちにも、被爆の様子や世界中の活動など、事実を知ってほしいと強く感じました。事実を知ることを通して、戦争のこと、原爆のこと、これからの自分たちができることなどを考えることができると思います。改めて子どもたちと学び、彼らが生きる時代を平和に過ごすために何ができるのか、一緒に考えていければと思っています。

## 青年部・オトナの宿泊学習

## 登山、温泉、ボーリング、交流会 全道の仲間と親睦を深めました

9月14日に、道教組青年部「オトナの宿泊学習」がありました。青年部総会の中で、青年組合員のやってみたいこととしてあげられた内容をすべて取り入れ、登山、温泉、ボーリング、交流会と、とても盛りだくさんの内容でした。全道から、未組織の先生や高教組組合員も含めて10名が参加しました。登山は、大雪山系の赤岳です。山は紅葉が進み、きれいな景色を楽しみながら歩きました。山の上で食べた昼食のカップラーメンはとてもおいしく感じられました。交流会も大いに盛り上がり、深夜まで語り合い、大いに親睦を深めることができました。





# 網走教組組合宿研

## 組合づくりについて、 新指導要領について、 確かめ合いました

8月24日～25日に、網走教組組合宿研がありました。

1日目は、道教組組合づくりリーフレットの内容をもとに、組合づくりへの思いを語り合い、確かめ合いました。

2日目は、新指導要領の移行が始まって、各学校の状況や、どのように向き合っていくかについて意見交換しました。

夜の交流会も、深夜まで語り合い、組合に集うことよさを存分に感じ取ることでできる学習会でした。



### ●1日目：組合づくりについて

#### ①「仲間」とは？

まず、リーフレットにある「増やしているのは『数』じゃない。『仲間』だ。」「の『仲間』とは何か、思いを語り合いました。

・こだわりが強く、学校を飛び出していった子に対して、別の子が「プレイルームで遊ぼうよ」と声をかけた。これ一歩でも二歩でも歩み寄れる。これ

が『仲間』だ。

・高校時の野球の仲間は、今では方向性も全く違うが、信頼関係がある。自分の力で『仲間』という意識を養っていく。

・同僚に、どうしても「この野郎」と思ってしまうこともある。そこを乗り越える余裕を持てるかが大きい。

・「仲間」の質がある。ただの「仲間」はちよつとしたことで切れてしまうが、いきなり質の高い「仲間」を求めても、何人もいない。千手観音のように、いろいろなところで手をつないでいく。

#### ②なぜ「失敗」に不寛容なのか

『仲間』について語る中で、子どもや同僚の「失敗」に不寛容な雰囲気について話題になりました。

・同僚に攻撃的な言動、「私、やっていまず」アピールをしなければ、子どもの失敗が担任への批判として返ってきてしまう。先生はくたくたで、おあらかじめ子どもを見る余裕がない。

・学校が多様性を失い、ロールモデルが決まっている。

・ノルマがあり、短期に成果を求められる。人間の成長は1年で成果が出るものではない。教基法が変えられてから酷くなった。

・時数確保が最優先で、教師も子どもも保護者もそのために全力で取り組まされている。

#### ③私たちが「語る」こと

次に、リーフレットの「私たちが、まず語ることから」とあるが、何を「語る」のか、交流しました。

・かつて、加入者に加入理由を聞く、「職員会議での組合員の話に共感したから」とのことだった。「語る」ことが大事。

・困った「おかしい」を職場で話すだけでは進まない。組合に入っていないとどうにもならない。

・がんで休職をした先生が復帰した。代替教員が見つからず、休んだら迷惑をかけると、無理をしているが、本当はきつい。

・教育実習の学生は、現場の忙しさに「無理」と感じる。インターンシップで来る中学生のアンケートにいいことを書くのにも抵抗がある。

・大変だが、子どもの前に立つと「いい教師でいたい」と思う。そこが大事。子どもの生活の中に、絶対に何かがある。そういう話をいっぱいすればいい。

・いつも「大変だ」と言うが、「そうは言っても、楽しそうですよね。」と言われる。それが、いろいろな人のよるところになる。

#### ④どう願いを実現させていくか

最後に、「願いを、実現させていく」「の「願い」や道筋について話し合いました。

・教師の主体性が発揮できるようになればいい。かつての職場でも、夜遅くまでの仕事はあったが、やらされ感はなかった。主体的にやるからつらくない。

・若い先生にとっては、レールの上が安心するのか。「スタンダード」のレール。外から来た先生が、はみ出て、

いいことをやっても評価されない。元になる考え方が一致すればいい。「これじゃなきゃだめ」が悪い。食い合いも「この時期は署名」のとりくみは魅力を感じない。

・子どもを中心とした議論をしたいが、かみ合わない。一から向いている方向が違う人とどうすればいいのか。

### ●2日目：新指導要領について

2日目は、新指導要領の移行に伴う各学校の状況について交流し、私たちが新指導要領にどう向き合っていくか、確かめ合いました。

・10連休などの対応で、今年は夏・冬休みが短縮。昨年度から、不必要な時数のカットをプロジェクトチームが検討している。

・運動会は1時で終了。ダンスもやらせたいが。クラブも委員会も選挙もなくてよいとの議論。

・議論して行事を残しても、翌年の異動で「まだ遠足やっているの」と、子どものために考えていることに對する批判的な声。

・小学校英語の準備が大変。巡回指導教諭による指導が入る。決められた指導過程に沿った準備が負担。

・プロگرامミング教育も始まったら、誰も高学年の担任はやらなくなる。国語は、新聞づくり、プレゼンテーションばかりになってしまっている。

・道徳の評価は、変容を書かなければならない。そう簡単に変容するものではなく、変容を生み出すための課題設定に無理が生じる。評価のための道徳になっている。